

# 家 庭

## 1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

### (1) 改善の方向性

ア 現行の学習指導要領の課題

中央教育審議会答申では、共通教科「家庭」における課題を次のように整理している。

- ・家族の一員として協力することへの関心が低いこと
- ・家族や地域の人々と関わること
- ・家庭での実践や社会に参画することが十分ではないこと

こうしたことに加えて、家族・家庭生活の多様化、消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められている。

イ 課題を踏まえた共通教科「家庭」の目標の在り方

共通教科「家庭」における資質・能力については、次のとおり整理することができる。

○ 共通教科「家庭」において育成を目指す資質・能力の整理		
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能	家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力	相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度
具体的内容		
乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能や各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能 など	家族、家庭や社会における生活の中から問題を見だし、課題を設定する力 など	様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度 など

ウ 共通教科「家庭」における「見方・考え方」

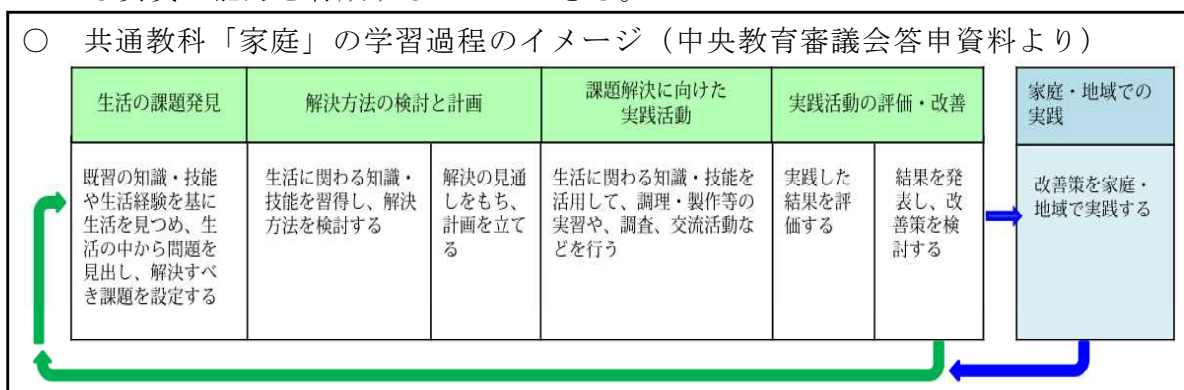
共通教科「家庭」では、「生活の営みに係る見方・考え方」として、生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造するために、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」と整理することができる。

### (2) 具体的な改善事項

ア 教育課程の示し方の改善（資質・能力を育成する学びの過程についての考え方）

共通教科「家庭」では、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ、生活の中の様々な問題の中から課題を設定し、その解決を目指して解決方法を検討し、計画

を立てて実践するとともに、その結果を評価・改善するという活動の中で、求められている資質・能力を育成することができる。



#### イ 教育内容の改善・充実（科目構成の見直し）

科目構成と内容については、現行の「家庭基礎」（２単位）、「家庭総合」（４単位）及び「生活デザイン」（４単位）の３科目から、各科目の履修状況を踏まえて、内容を再構成し「家庭基礎」、「家庭総合」の２科目とする。

「家庭基礎」では、高等学校の卒業段階において、自立した生活者として必要な実践力を育成することを重視した基礎的な内容構成とする。

「家庭総合」では、従前の「家庭総合」や「生活デザイン」の内容を引き継ぎ、生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させるとともに、主体的に生活を設計することや、生活文化の継承・創造等、生活の価値や質を高め豊かな生活を創造することを重視した内容構成とする。

また、これらの学習により身に付けた知識・技能を活用して、「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実する。

#### ウ 学習・指導の改善充実や教育課程の充実等

##### (ア) 「主体的・対話的で深い学び」の充実

- 「主体的な学び」の視点  
共通教科「家庭」における「主体的な学び」とは、現在及び生涯を見通した生活の課題について、解決の見通しを持ち、課題の発見や解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って、次の学習に主体的に取り組む態度を育む学びである。
- 「対話的な学び」の視点  
共通教科「家庭」における「対話的な学び」とは、他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたり、他者と協働したりするなど、自らの考えを広げ深める学びである。
- 「深い学び」の視点  
共通教科「家庭」における「深い学び」とは、生徒が、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学びである。

##### (イ) 教材や教育環境の充実

共通教科「家庭」では、生活事象の原理・原則を科学的に理解するための指導等において、ICTの活用の充実や、実感を伴った理解を深めるために、乳幼児触れ合い体験や高齢者疑似体験等に必要な教材を充実させた教育環境が求められる。

## 2 資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

### (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実践例～献立作成から調理・発表までの単元の指導と評価の計画及びルーブリックについて

学習活動が、生徒たち一人一人の資質・能力の育成や生涯にわたる学びにつながる、意味のある学びとするために、授業や単元の流れを「主体的・対話的で深い学び」の過程として捉え、生徒が習得した概念や思考力等を手段として活用・発揮させることが必要である。また、教員が学習の成果を的確に捉え、指導の改善を図り、生徒自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうようにするためには学習評価の在り方が重要である。

「主体的・対話的で深い学び」の単元の指導と評価の計画例を表1に、生徒の学習成果を把握するとともに、生徒に評価規準を示すことで、学習意欲の向上を目的とした単元の献立作成から調理・発表までの流れを取り入れたルーブリックの例を表2に示す。ここでは評価の観点を現行の4観点で示しているが、次期学習指導要領では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう態度」の3観点とされる予定である。

【表1】単元の指導と評価の計画例

家庭総合4単位(全140時間) ※ 「生活の科学と環境」と「ホームプロジェクト」を関連させた指導計画						
(4) 生活の科学と環境 ア 食生活の科学と文化(6時間)						
(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動(8時間)						
全14時間						
※ 〈主〉…主体的な学び 〈対〉…対話的な学び 〈深〉…深い学び が可能となる学習活動						
時間	学 習 活 動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
6	(4) 生活の科学と環境 ア 食生活の科学と文化 ・各ライフステージにおける食生活の特徴と課題について理解する。	○			○	・各ライフステージの特徴と課題を理解し、情報を適切に判断し、関心を持って食生活を営むことができる。 〈評価方法〉ワークシート、定期考査
	・栄養や嗜好を考慮した献立を作成する。(★) 〈主〉〈対〉〈深〉 〈5頁の(2)の授業展開例参照〉	○	○		○	・自分の食生活を調査・把握して課題を見つけ、栄養や嗜好を考慮した献立作成の方法が理解できる。 〈評価方法〉観察、ワークシート
8	(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・身近な人の一食分の献立を考える。(★) 〈主〉	○	○			・身近な人の食生活の傾向と嗜好を調査し、学習を基に栄養バランスを考慮した献立作成ができる。 〈評価方法〉観察、ワークシート 
	・課題解決に向けた適切なプレゼンテーションを作成する。(★) 〈主〉〈対〉〈深〉	○	○	○		・身近な人の食生活から課題を見出し、グループワークを通じて主体的に課題解決に向けた学習計画を立案できる。 〈評価方法〉観察、ワークシート、プレゼンテーション
	・作成した献立を元に調理を行う。(★)  〈主〉〈対〉	○		○		・献立表に基づき衛生面を考慮しながら、意欲的に適切な調理操作ができる。 〈評価方法〉調理実習、ワークシート 
	・発表会において、自らの役割を果たして発表をする。(★)  〈主〉〈対〉〈深〉		○	○		・献立作成に至るまでの課題解決方法を説明し完成した料理を調理・披露することができる。 〈評価方法〉観察、ワークシート、発言、プレゼンテーション 
	・反省点をまとめ、改善点を振り返る。(★)  〈主〉〈対〉〈深〉		○	○		・自己評価を行い、グループで反省点をまとめることができる。また、自分の家族に提供する場合には、どのような改善が必要であるか、考えることができる。 〈評価方法〉ワークシート、定期考査

★印は「生徒が習得した概念や思考力等を手段として活用・発揮させる」視点による学習が可能な活動である。

【表2】 献立作成から調理・発表までの流れを取り入れたルーブリックの例

項目	評価の観点	C (1点)	B (3点)	A (5点)
献立作成	関心・意欲・態度	目的を理解せずに、取り組もうとしている。	目的を理解し、取り組もうとしている。	目的を理解し、自ら進んで積極的に取り組もうとしている。
	思考・判断・表現	学習した内容を基に献立を作成できる。	栄養的知識を基に、適切な献立を作成できる。	栄養的知識を基に、経済、能率、嗜好を踏まえた適切な献立を作成できる。
	技能	献立作成に必要な情報の収集・整理ができる。	献立作成に必要な適切な情報の収集・整理ができる。	献立作成に必要な情報を多様な視点からの確に収集・整理ができる。
	知識・理解	献立作成について理解できる。	献立作成に必要な食事摂取基準等の栄養について理解できる。	献立作成に必要な食事摂取基準等の栄養について科学的に理解できる。
資料作成	関心・意欲・態度	資料作成をしようとしている。	積極的に資料作成をしようとしている。	班員と連携し、積極的に資料作成をしようとしている。
	思考・判断・表現	食生活の課題について、自分の考えをまとめることができる。	食生活の課題について、自分の考えをまとめ発表できる。	食生活の課題について、自分の考えを具体的にまとめ発表できる。
	技能	課題解決に向けて情報を収集することができる。	課題解決に向けて情報を収集したり整理したりすることができる。	課題解決に向けて情報を多様な視点から収集し、整理することができる。
	知識・理解	食生活の課題を理解できる。	各ライフステージの食生活の課題が理解できる。	各ライフステージの食生活の課題や食事摂取基準等が科学的に理解できる。
調理実習	関心・意欲・態度	実習に参加しようとしている。	意欲的に実習に参加しようとしている。	班員と連携し、意欲的に効率よく実習に参加しようとしている。
	思考・判断・表現	食事を管理することについて、考えることができる。	食事を管理運営することについて、考えることができる。	食事を管理運営することについて考え、工夫できる。
	技能	食事を管理するために必要な基礎的な調理ができる。	食事を管理運営するために必要な基礎的な調理ができる。	食事を管理運営するだけでなく、環境にも配慮した調理ができる。
	知識・理解	基礎的な調理ができる。	食の安全性を理解して調理ができる。	食品の栄養的特質や性質、安全性について科学的に理解して調理ができる。
発表	関心・意欲・態度	自分の役割を理解せずに発表しようとしている。	自分の役割に責任を持って発表しようとしている。	自分の役割に責任を持ち、聞く側に伝わるように意欲的に発表しようとしている。
	思考・判断・表現	他班の発表を聞いて、まとめることができる。	他班の発表を聞いて改善策を考え、まとめることができる。	他班の発表を聞き、学習を生かして様々な視点から考えた改善策をまとめることができる。
	技能	必要な情報を収集・整理し、説明できる。	必要な情報を収集・整理し、分かりやすく説明できる。	最新の情報を収集・整理し、正確な技術に基づき説明できる。
	知識・理解			

## (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実践例～調査・研究した内容を基にした授業展開について

(1)に示した単元の指導と評価の計画の中から、科目「家庭総合」において、課題として事前に調査・研究した内容を基に、「主体的・対話的で深い学び」の授業展開例を次に示す。この授業の後に、3頁の(1)の「単元の指導と評価の計画例」に示したように、「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」として発展させることが可能である。

### 【授業展開例】

本時の主題	(4) 「生活の科学と環境」 ア 食生活の科学と文化 「人の一生と食事」(2時間目/6時間)			
本時の目標	各ライフステージにおける食生活の課題や嗜好の変化、食事摂取基準や食品群別摂取量などについて理解させる。また、家族の嗜好を考慮し、栄養バランスのとれた献立を作成するため、「家族インタビュー」を元に献立を作成する。			
過程	指導内容	学習活動	評価について	指導上の留意点
導入	・本時の学習内容の確認	・前時の学習を振り返る。	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・献立作成に必要な準備ができています。 〈評価方法〉 行動観察	・前時に使用したワークシート1に引き続き、本時の内容を記載するよう指導する。
展開	・各ライフステージの食生活の特徴についての確認 ・家族の献立作成	・乳児期から高齢期までの食事摂取基準等と食生活の課題について前時に続きまとめる。 <b>〈主体的な学び〉</b> ・長期休業中に調査した「家族インタビュー」を元に、家族の嗜好を踏まえた献立を作成する。 <b>〈主体的な学び〉</b> ※ <b>ワークシート1参照</b>	<b>【知識・理解】</b> ・各ライフステージの食事摂取基準等と食生活の課題について、基礎的・基本的な知識が身に付いている。 〈評価方法〉 行動観察、ワークシート <b>【関心・意欲・態度】</b> ・家族の食生活に関心を持ち、献立を作成しようとしている。 〈評価方法〉 行動観察、ワークシート <b>【思考・判断・表現】</b> ・家族の健康と嗜好を考慮し、工夫した献立を作成している。 〈評価方法〉 行動観察、ワークシート	・献立作成の基本となる食生活の課題や、栄養について知識を深めるよう指導する。 ・家族の嗜好だけでなく、食品群別摂取量の目安等の知識と情報を基に献立を作成するよう指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;">             ●C「努力を要する」と判断した生徒への手立て              ◇対象家族が最も好みそうなメニューを基本とし、そこから不足する食品群を何の食品で補うのか考えるよう指導する。           </div>
まとめ	・まとめ ・次時の学習内容の把握	・作成した献立表をグループ内で発表し、意見交換を基に献立表を改善する。 <b>〈対話的な学び〉〈深い学び〉</b> ※ <b>ワークシート2参照</b> ・次時に実施するグループ内発表について確認する。	<b>【思考・判断・表現】</b> ・グループ内での意見交換を基に献立表を改善し、適切にまとめている。 〈評価方法〉 行動観察、ワークシート	・グループ内での意見交換を基に献立表を改善させる。 ・次時までには収集すべき情報や、事前作業の内容を確認させる。

### 【ワークシート1 家族インタビュー】

家族インタビュー	
対象家族	
好きな食べ物等	
よく食べるメニュー等	
食事の時に気を付けていること	
1年( )組( )番氏名( )	

### 【ワークシート2 献立表】

献立表	
月( )日( )の( )のリクエスト献立	
朝食・昼食・夕食メニュー ※いづれかに○印	
目的	
献立名	主食→
	副食→
	副菜→
材料	
1年( )組( )番氏名( )	

# Topic

# 保育技術検定について

＜主催：公益財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会 後援：文部科学省＞

家庭科技術検定の1つである保育技術検定は、生徒に子ども理解・保育に関する知識と技術・学習意欲・思考力・表現力・チャレンジ力・創造力・豊かな心を育てることを目的としている。

特に保育技術検定4・3級は、親や子育て支援に必要となる基礎的な知識・技術を見極めるための内容となっていることから、特色ある取組として「家庭総合」等の授業において、保育技術検定の一部を取り入れ、生徒が学習した内容を生かすための教材として活用することが考えられる。

## ＜各級の検定内容及び「家庭総合」において取り入れた応用例＞

各級の内容									
級	音楽・リズム表現技術		造形表現技術		言語表現技術		家庭看護技術		筆記
	内容	方法・時間	内容	方法・時間	内容	方法・時間	内容	方法・時間	有無・時間
1級	ピアノ演奏と童謡の弾き歌い	個別 5分	壁面構成	一斉 50分	素話の創作と実演	個別 3分	乳幼児の生活の世話(けがの手当)	個別 5分	各種目有 各10分
2級	ピアノ演奏と童謡歌唱	個別 5分	貼り絵(ちぎり絵・切り絵)	一斉 50分	絵本の読みきかせ	個別 3分	乳幼児の生活の世話(清拭・おむつの交換)	個別 5分	各種目有 各10分
3級	ピアノ演奏と歌唱	個別 5分	折り紙と描画	一斉 40分	紙芝居の実演	個別 3分	乳幼児の生活の世話(衣類の着脱)	個別 5分	無
4級	歌唱	個別 5分	折り紙	一斉 30分	童謡など短い文章の読みきかせ	個別 2分	乳幼児の世話(だっこ・授乳・検温等)	個別 2分	無

～例えば～

### 実技4級応用例1

保育所実習の際に、担当する年齢の幼児が自分の力で折ることができるように折り紙作品を教えよう！！



### 実技4級応用例2

用意された絵本を、5歳児に聞かせるつもりで、2分間で読みなさい。

#### ＜学校家庭クラブ活動での活用＞

保育技術検定の学習を通して得た知識や技術を生かし、年中行事を取り入れた「壁面構成」を学校家庭クラブ活動において制作し、実習を行った保育所に寄贈することなどが考えられる。

### 実技4級応用例3

保育人形を乳児に見立て、哺乳瓶を使用して哺乳させなさい。

